



公明党

永尾

邦忠
議員

▼少子高齢化と人口減少の中での、定住促進とコンパクトシティーへの将来像について

Q 本市の取り組みとその成果はどうか。

A 本市では、平成十八年度から県が主催しているながさき田舎暮らしキャラバンに参加し、Uイーターン者の情報収集、PRに努め、相談された方のうち三世帯七人の移住を確認している。

Q しまばら田舎暮らし情報のアクセス数と効果は。また、定住促進の施策はどうか。

A 市のホームページ及び総務省の交流居住ポータルサイトにおいて情報発信を行っており、Uイーターンの相談で市に直接あったものが八十二件、交流居住ポータルサイトを通じてのアクセスが年間六百件である。また、定住促進の施策は、Uイーターン以外にも、現に生活されている方がいかに地元に残っていたかということも重要であり、福祉、教育の施策の充実、地域経済の活性化に向け取り組むことが基本である。

Q 雲仙暮らしの体験施設は半島で唯一の短期滞在型の体験施設だが、本市での検討課題ではないか。また、空き家の調査状況と活用についてどう考えているのか。

A 農林漁業体験施設である舞岳山荘の活用を検討したい。また、県の宅建協会の島原支部によると、戸建貸家の空き状況は、昨年の九月現在で六九軒、集合住宅で百八十六室と聞いているが、同協会の管理していない分については十分把握できていない。

Q 企業誘致に対して現実的な考察は。

A 現在の経済情勢、地理的条件を考えると非常に厳しいが、農林水産業と食品製造業などとの連携に対する支援制度の検討を行いたい。

Q 地域交通網、特に諫早インターまでの高速道路の実現性、可能性はあるのか。また、買い物弱者や通院弱者のための交通インフラ整備の計画を示してほしい。

A 県も国と協議していきたいという前向きな姿勢が出てきたので、ぜひ実現しなければいけないと考えている。また、バス、ジャンボタクシーによる実証運行を重ね、利便性の高い公共交通の整備に取り組みたい。

【その他の質問項目】

◇交流人口とジオパークについて



政策研究会

中川

忠則
議員

▼島原市敬老祝金支給要綱について

Q 九月二日から敬老の日までに該当する人に支給されない事態をどう考えるのか。状況により要綱の変更は可能ではある。

▼地区社会福祉協議会について

Q 各地区にある地区社協は独立しているのか。

A それぞれに独立した機関である。

Q 事業の内容は。また、予算はあるのか。

A 会食・配食サービスや世代間交流事業等であり、市社協の予算に、推進事業助成金等が四百四十七万円が計上されている。

▼印鑑登録証交付の取り扱いについて

Q 印鑑登録証の再交付のとき、なぜ実印が必要なのか。(実印は紛失していない)

A 新規登録と同様の手続きとなる。

▼猛暑対策について

Q 小・中学校の体育館にクーラーを設置する考えはないのか。

A 文科省の動向等も見ながら検討したい。

Q 小川や緑をふやして森の中に市があるような街づくりに取り組めないか。

豊かな湧水と緑を生かしたまちづくりを推進しているので、今後、市内の緑化に向けて取り組みたい。

▼専決処分の承認・承認の取り扱いについて

Q 国民健康保険条例の改正、市長や職員の人オナス半減、議員報酬の日当制等が専決処分され、議決が不承認の場合の取り扱いはどうなるのか。

A 不承認であっても、専決処分の効力には影響しないとされている。

Q 国や県は市議会を開かせることはできるのか。

A 長に議会を招集するよう促すことはできると思うが、法的強制力はない。

▼夏休みについて

Q 共働き世帯の増加により、夏休み期間中の児童・生徒と社会教育はどのようにかわることができるのか。

A 各公民館で寺小屋式的な教室を開く準備を進めており、将来的には夏休み期間中にも、教室を開きたいと考えている。

Q プール利用時の監視体制はどうなっているのか。

A 各学校で監視員の数には差はあるが、市、学校、育友会で連携して監視し、子供たちの活動の場として開放したい。

【その他の質問項目】

◇百歳以上の市民の生存調査について